

東日本大震災を受けて・・・

## 外国籍市民はその時！

平成23年3月11日。この日は、千年に一度といわれる大地震と津波が東北地方を襲いました。その後、福島第一原子力発電所の爆発事故があるなど、震災の発生から4カ月ほど経った現在も、人々は大震災と向き合っています。

そんな中、盛岡の外国籍市民はどのような行動をとったのか。外国籍市民の行動と考えることを聞くため、また、これからの災害支援に反映させるために、5月31日に岩手大学、6月1日に盛岡情報ビジネス専門学校で、留学生に震災当時のお話を聞きました。

地震の発生時間が日中で、学生のほとんどが学校の中にいたため、両校の学生は「先生の指示に従った」「周囲の日本人の行動を見て屋外に逃げた」と話していました。また、その夜は、停電と断水のため「学校から支給された寝袋を使用し学校に泊った」、「上田公民館や盛岡体育館ですごした」、「学校の指示で寮にいた」と当時を振り返っていました。

地震での建物などへの被害がほとんどなかった盛岡で、外国籍市民が最も心配したのは、原子力発電所での爆発事故でした。今回お話を聞いた留学生の半数近くが、一度母国に帰国していました。

また、自分たちが逃げるべき避難場所を知らない人がほとんどで、非常用具の準備をしている人はいませんでした。多くの留学生が「大地震」の影響が自分の身に降りかかってくるとは思ってもいなかったようです。

協会では、留学生から体験を聞いたことで見えてきた災害時におけるさまざまな問題点や課題を盛岡市に提言し、協会としても協力していきたいと考えています。



震災発生時の体験を語る留学生  
(上：岩手大学、下：盛岡情報ビジネス専門学校)



避難場所を確認 (盛岡情報ビジネス専門学校)

## JICAボランティア活動報告～ブータン編～

今号から年に1回の企画で、JICAボランティア活動報告を掲載します。今回は、現在ブータンで小学校教諭として活動している東野新さんからの報告です。



ソーラン節を練習して  
学校で披露しました



私の朝は「ガングロテ」という子ども達が元気いっぱいに唱えるお経の声で始まります。首都から車で約3時間の町にあるクルタン小中学校が私の勤務先です。昨年度はここで2年生、今年度は3年生の算数の指導を行っています。私は今、自分が受け持つクラスの指導のほか、ほかの教員と一緒に授業をしたり、教材室を設け自作の算数教材を共有できるようにしたりしています。休日には竹や木材などでシーソーやブランコなどの公園の遊具を学校の敷地に作っています。また、日本の小学校から送ってもらった朝顔や菜の花の種を花壇に植え、花が咲くのを子ども達と心待ちにしているところです。

学校の子どもの笑顔が私の何よりの自慢で、本当にどの子どもとても素直で優しい子ども達です。ケンカはしても「いじめ」はなく、年が上の男の子はみな、ゾンカ語で「お兄ちゃん」を意味する「アチョー」と呼ばれ、年下の子の面倒をととてもよく見えています。仏教の教えやGNH(国民総幸福量)という国の指針、親のしつけなどが彼らの明るく親切な人間性を育てているように思います。

算数に関しては基礎が身に付いていない児童が多く、高学年でも指や手の関節を用いて数を数える姿が見られます。様々な要因がありますが、黒板だけを用いた一斉指導に頼った授業が一番の要因だと考えられます。昨年 JICA

の「世界の笑顔のために」というプログラムに申請し、盛岡市の小学校や母の知り合いの方達のご協力で算数セットを集め送っていただきました。段ボール箱13箱にも及ぶ教材が届き、教員も子ども達も本当に喜んでいました。今後はこれらの教材を通じて、子ども達がより楽しく算数を学んでいくことができます。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

残り約半年の活動となりましたが、帰国後は震災の被災地でボランティアとして活動する予定です。そしてそののちにもう一度日本で小学校の先生になるつもりです。「全ての人々が幸せになりたくて、今を生きている大切な存在なのだ」という思いを、少しでも日本の子ども達に伝えられる人になりたいと願っています。ブータンは6月から約3カ月間の長い雨期になります。国民の大半が農家であるブータンでは作物を実らせる恵みの雨です。山あいに並ぶ棚田が、そこに美しい青空を映し込む光景は、故郷の岩手の風景を思い出させ、ふと私の大切な家族や友人達にも見せてあげたいと思います。親切な同僚や大好きな子ども達に

囲まれて私は今、「幸せ」です。残り半年間自分にできることを一生懸命にやって、日本で家族や友人達、同期隊員らと笑顔で再会できることを楽しみにしています。

分数カルタを作って  
子ども達と分数ゲーム  
をしながら勉強中



青年海外協力隊 21年度3次隊 ブータン派遣

小学校教諭 東野 新

## 幸せの国ブータンから

## “支援の手” カナダ・ビクトリア市からも！

東日本大震災を受け、日本中が、世界中が被災地を想い、いろいろな活動をしている中、盛岡の姉妹都市のカナダ・ビクトリア市からは、心のこもった贈り物が届けられました。

3月下旬にビクトリア市のウィルウェイ小学校の3年生から、被災者へのメッセージを添えたたくさんの児童の手形が届きました。盛岡市ではその手形をパネルに仕立て、沿岸からの被災者が過ごしている市内の避難所に設置し、被災者の皆さんに見ていただきました。

ビクトリア市内では、日系団体やビクトリ

ア市役所が一緒になり、現在も活発に支援金募金活動を行っています。詳しくは「サポートジャパン2011」（ビクトリア日系文化協会）のウェブサイトをご覧ください。（<http://www.vncs.ca>）

また、ビクトリア盛岡友好協会のビル・マクレディ会長夫妻が5月に来盛し、支援金を盛岡市長へと手渡しました。その後、被災地を訪問し、現地の中学校の生徒にたくさんのプレゼントを渡しました。

そこには、姉妹都市提携から25年を経た今太平洋を越え、人と人とを結び思いやる確かな「絆」がありました。



ウィルウェイ小学校からいただいた  
ハンドプリント



支援金を盛岡市長に贈呈するビ  
クトリア盛岡友好協会会長夫妻



陸前高田市立米崎中学校の生徒たち  
と交流

## 盛岡の歴史的な町並みを散策

鉾屋町界隈を巡る町家ツアーと通訳ボランティア実地講習会を6月12日に合同で開催しました。

外国人留学生12人と通訳ボランティア8人が3グループに分かれ▽下町史料館▽大慈清水▽青龍水▽盛岡町家（大慈清水御休み処）の4カ所を見学し、交流を深めました。

外国人留学生は「盛岡の下町の歴史や文化を楽しく勉強できた」と話していました。

一方、通訳ボランティアからは「英語圏外国人の参加者を増やしてほしい」という要望がありました。



町家の<sup>もろ</sup>涼しさに  
驚き！！



下町史料館で昔の生活用具を見学

## 事業報告



### 通訳ボランティア室内講習会

盛岡町家ツアーに先立ち、プラザおでつで6月4日、通訳ボランティア室内講習会が開催され、参加者は盛岡町家について、事前に学びました。



町家の基本知識を学ぶ（右上）



英語と中国語に分かれて、それぞれの言語で説明の勉強中（左：英語、右下：中国語）

## 今年も開催！ 中学生による国際交流コンテスト

プラザおでってで7月2日、「中学生による国際交流コンテスト」が行われました。12人の生徒がテーマに沿った作文を発表し、岩手中学校2年生の八重樫<sup>りょう</sup>怜さんが最優秀賞に輝きました。

今年のテーマは「私が考える国際貢献や支援活動」と「海外でやってみたいこと、そのために今私は…」。全ての作品が、生徒の思いが書きつづられた素晴らしいものでした。

コンテストで、最優秀賞と優秀賞に選ばれた7人は、10月に行う「中学生ビクトリア市研修」に参加する予定です。



最優秀賞を受賞した八重樫怜さん

## 平成23年度 賛助会員を大募集中☆

あなたも賛助会員になって国際交流をしませんか？

- 【会員特典】▽協会所蔵の図書やビデオの貸出
- ▽語学や料理等の講座の先行申込
- ▽参加費の割引
- ▽協会機関紙やイベントちらしの送付



**年会費**

**個人 1,000円/口**  
**団体 10,000円/口**

## 編集後記

盛岡の短い夏がやってきましたね。

夏は食中毒の時期です。食事前には手洗いをして、少しでも「変かも？」と思ったら食

## 初級中国講座～はじめの一步♪～

協会では6月1日から毎週水曜日、6回にわたり初級中国講座を開催しました。

参加者は、中国語で必要とされるピンイン（発音記号）を中心に、声調（アクセント）を勉強したほか、中国の文化も学びました。



声調の問題を解く受講者

## これからの協会イベント

☆☆☆ アジアの屋台村 ☆☆☆

【日時】 平成23年8月6日（土）

11:00～15:00

【場所】 プラザおでって おでって広場

例年より1カ月遅れですが、今年も開催が決定しました！参加国は▽中国▽インドネシア▽ウイグル▽ベトナム▽モンゴル▽ネパールを予定しています。

ご家族、お友達を誘い合わせ、ぜひお越しください☆



昨年の屋台村のようす

その他のイベント予定

- ・被災地支援「世界の屋台村@山田町」
- ▽平成23年9月10日（土）（予定）
- ▽山田町

べないように。温めなおすときは十分に加熱し、食中毒にならないように日ごろから気をつけて夏を乗り切りましょう！

（にゃーご）